

# 東日本大震災災害対策NEWS

◇東日本の仲間とともにがんばろう◇

〒336-8512 埼玉県さいたま市南区鹿手袋 6-18-12 Tel.048-863-6211 Fax048-837-1989

## 鈴木委員長を先頭に仲間からの救援物資を持って 岩手県連、宮城県連へお見舞い・激励に

【保永（国保組合事務局次長）記】四月十二日、十三日に東日本大震災後の被災地組合の支援と激励をかねて、岩手県建設労働組合連合会と宮城県建設職組合連合会を鈴木委員長と島書記次長と訪問しました。

仲間・家族含め六九人（四月二八日現在）死亡・行方不明

東北自動車道は震災の影響により、道路の継ぎ目に段差や亀裂があり、一定の補修工事は済んでいますが完全な状態ではなく、暴風板の破損や路肩の崩壊なども目立ち、復旧作業を行う作業車や赤いカラーコーンにより車線規制が行われている箇所が複数あります。高速道路沿いの周辺住宅の状況は、屋根瓦が落ちてブルーシートがかけられている民家が多く見受けられますが、軒並み同じ状況という感じではなく安心できる状況です。



岩手県連斎藤会長（中央）と鈴木委員長（右）と島書記次長（左）



高台から被害状況を視察

岩手県盛岡市内でも、想像を超えるような家屋倒壊などもあり、外壁に地震の影響が若干出ている家屋がいくつかあるぐらいで内陸地域には報道されている悲惨な状況はないことがわかります。岩手県建設労働組合連合会の齋藤県連会長から仲間の被害状況についての報告では、「被害状況は、現在七人仲間の死亡が確認（四月二八日現在）されており、行方不明も六九人となっており」と沿岸部に発生

した津波による被害によって街は壊滅状態であることが報告されました。

### 仮設住宅急ピッチだが

その後移動して、岩手県釜石市の仮設住宅建設現場を見学しました。公園スペースを利用して約三百世帯が暮らせるプレハブ住宅の建設が急ピッチです。建てていきましたが、そこで働く作業員の大半は大手業者の関連で施工がすすめられ地方からも呼び寄せられている地元以外の業者であることが問題視されています。失意の中で住む家、家族を奪われ、そして職業までも失いかけている仲間の仕事がしつかり回っておらず、雇用問題も抱えている状況です。復興復旧作業の優先は、第一に津波により破壊された瓦礫を撤去すること



廃墟化した街



岩手県連釜石大工組合と懇談

が最優先であり、次いで個人住宅の補修関係と移るようです。そのため、今最も重宝されているのが重機を持つ業者であります。重機やトラック、作業道具を津波により失った県連の仲間が解体撤去の仕事はなく、すべて大手業者が受注しており、復興支援にはかかわっていません。さらにその後の個人住宅の補修まで、迅速な対応を売りに一部で客の囲い込みが始まっているので、ボランティアとビジネスの狭間で昔から付き合いのある状況を打ち壊す事態となつていきます。

### 組合の力なしに復興はあり得ない

釜石大工組合は、緊急の課題として、丸のこ五〇機、インパクトドライバー五〇機を集め、県連組合と相談して早急に工面して作業ができる環境を整えています。今後は災害救助法により、

\*震災による現場での影響、情報、仲間の奮闘を支部、本部へおよせください。なお、写真があればメールで送ってください。よろしくお祈りします。

個人住宅補修のために支払われる五二万円の支給で仕事が発生します。しっかり地元業者へ発注させていけるように、県連と釜石大工組合は、自治体との交渉を強める中で、地元業者に仕事が流れ、地域経済が復興している結果、交渉をすすめている結果、自治体の側からも「この復興は組合の方の力なしには実現しない。」と釜石市の返答にも組合の力と存在に期待が込められています。(現在七人の申請)また、釜石市は、建設業の各職の方を確保するため、人を直接雇用する計画も検討していることなど釜石の大工組合役員の方から聴いています。被災地視察では、特に津波被害がひどい地域である岩手県陸前高田市を見てきました。



グニャグニャの鉄骨

状況は大変深刻で、あたり一面三六〇度。すべてが瓦礫の山の状態であり、砂埃が舞い、地が割れ、あらゆる生命力がない空気が漂い、無残に残っている建物がそこにあるのみ、さかさまの家屋、ボロボロでガラスが割れナンバーの外された車、グニャグニャの鉄骨(H鋼材)、道路のすぐそばまで海水がきており一ヶ月経過した今も水が引かないなど、日常でない廃墟と化している街に恐怖を感じたことが印象的です。倒壊せずに残ったマンションは、四階部分の窓ガラスがすべて割れており、五階の床まで水がきていたことがわかります。凄惨な状況であることと同時にどうしようもない無力さを実感しました。部分的ですが、すぐに住めないまでも全倒壊を免れた家屋の中には、在来工法の



廃墟化した街

木造住宅が多く残されており、津波被害を受けて多くの建物が流されてしまったプレハブ住宅との差に信頼を感じることができません。宮城県連組合員二九人が死亡、家族も六四人が

宮城県連の山崎会長から、四月十三日現在の組合内の被害状況について、「現在までに約九十%の組合員の実態が把握できており、組合員死亡が二九人、家族死亡が六四人となっている。残り十%の確認を早期にすめていきたい。」と報告があ



宮城県連会館前で



宮城県連山崎会長と鈴木委員長

りました。震災当日に、国保組合会が行われており、参加者の中に気仙沼市の方がおり、自宅との連絡が全くつかずに途絶えた状態であったため、県連のある仙台市宮城野区から百キロ以上離れた自宅を目指して、徒歩と自転車を使い、丸四日間かけて帰宅できたが、残された自宅の中で逃げ遅れた状況で変わり果てた奥さんと悲しい対面となってしまったことなど震災による被害のむごさが語られています。岩手県連とは対照的に、災害救助法との関係は、自治体の混乱により、まだ十分に市民に伝わりきれていない現状であると報告されています。復興に向けて、対策本部を中心に道具不足の問題、生活不能状態からの脱却について検討中です。建築資材が品薄の状態で簡易な補修も十分にすすんでいないことなども報告されましたが、今このとき組合が一丸となって、「早期の復興を目指して頑張る」と力強い決意が語られています。釜石市、大船渡市、陸前高田市の沿岸地域の被害を確認して、この大震災が奪ったものは半端なものではないことがよくわかりました。改めて復興に全力で取り組み、いち早く正常な暮らしに戻れるようにお祈り申し上げます。各県連組合に対して、復興見舞金と電池やマスクなどの物資を届け、引き続き、物心両面の支援を可能な限り支援していくこと、また、鈴木委員長が今後の災害ボランティア活動を通じてさらなる協力を約束して激励と

**ボランティアの呼びかけに、**

**14日現在、10人が申込**

全労連の救援ボランティア募集については、14日現在、10人の申し込みです。今後の救援ボランティアをスムーズに進めていけるように、18日から本部先遣隊4人も、岩手、宮城に現地入りします。引き続き、ボランティアを募集しています。よろしく願いいたします。なお、全労連からの指示により、当面の福島での活動は見送りとなりました。派遣希望先は、岩手、宮城の2カ所のいずれかを選択してください。



岩手県釜石市の仮設住宅の進捗状況